

平成 23 年度第 4 回新宿区外部評価委員会会議要旨

<開催日>

平成 23 年 8 月 22 日（月）

<場所>

区役所本庁舎 6 階 第 2 委員会室

<出席者>

外部評価委員（14 名）

卯月会長、名和田副会長、岡本委員（第 2 部会長）、入江委員、大塚委員、川俣委員、小菅委員、須貝委員、富井委員、中原委員、鍋島委員、芳賀委員、山村委員、渡辺委員

事務局（5 名）

猿橋総合政策部長、山崎行政管理課長、大竹主査、担当 2 名

<開会>

1 外部評価結果報告書のフォーマットについて

【会長】

23年度第4回新宿区外部評価委員会を開会したいと思います。

本日で計画事業の評価につきましては最終回となります。

最初に前回もご議論いただいた外部評価結果報告書のフォーマットについてです。

まず前回の議論を踏まえてのフォーマットの案について事務局からご説明をいただけますでしょうか。

【事務局】

はい。大まかな体裁としましては今までの評価書と変わりません。

第一次実行計画の計画事業への評価としては、4つの視点による評価と総合評価及び最終年度に向けた方向性それぞれの、内部評価結果とそれに対する外部評価を記載しています。

「適当でない」と評価いただいた項目につきましては、その視点と理由につきまして四角囲みにして記載しました。

「適当である」けれども何かご意見のあった場合には、「総合評価」「協働の視点による評価」及び「その他意見」として、四角囲みなどはせずに記載しました。

前回の議論で、いろいろとご指摘をいただいた「第二次実行計画の方向性（見込み）への意見」という欄ですが、前回の議論を踏まえまして、事業そのものが可か否かという誤解のないように、新しい計画に向けた方向性についてご意見をちょうだいするという視点でまとめています。

体裁としては、最後に枠をつくりまして「第二次実行計画の方向性（見込み）への意見」という形でまとめました。

文面ですが「適当である」場合も「適当でない」場合も、文章の一番上に、例えば「平成23年6月現在の内部評価における『継続』という方向性（見込み）の判断は適当でない」という形にしています。その上で理由、意見をその下に述べるという形でまとめました。

【会長】

フォーマットについての作り方について、どうでしょう。

【副会長】

前回幾つか議論しましたが、「第二次実行計画の方向性（見込み）への意見」という、行政側としても見込みになっているものに対しての意見は、事業そのものへの可否だと思われるなど誤解を招きやすいんじゃないかという話だったと思います。今回こうして見ると、字の大きさの違いだけで大分印象が変わると感じます。行政の見込みに対して委員会として意見を言った、ということが読み手に伝わるという意味では、前回と大分感じが違うなと思います。

他の委員の方はいかがでしょうか。

【委員】

内部評価結果についてはどこかに記載しないのでしょうか。

【事務局】

第一次実行計画の評価欄の一番右につけようかと、当初は事務局側も思っておりました。しかし、そこに並べてつくってしまいますと、第二次実行計画の方向性ということではなく、第二次実行計画そのものが「適当」か「不適当」かの判断に見えてしまうというのがございまして、出し方、見せ方としてまずいんじゃないかと考えました。

【部会長】

例えば「内部評価の「拡大」の方向性は適当である」とか「「継続」の方向性は適当である」という記載が最初についていますが、ちょっと整理したほうが見やすいかなと思いますね。

【会長】

決まり文句の言い方を、少し変えるということですか。今の文句だと、上の評価の欄に対応する箱がありそうな感じで見てしまい、何か違うなという感じがする。例えばこのフォームの中に、第一次実行計画という言葉を入れるとわかりやすくなるでしょうか。

【委員】

とにかく「第二次実行計画の方向性（見込み）」というのがよくわからないということでしょう。文章の中で読めばわかる。上の評価のところに書くのは妥当ではない。ただ、下の「第二次実行計画の方向性（見込み）への意見」の上に方向性（見込み）そのものを書くか、平成23年6月現在、括弧つきで方向性（見込み）を書いて、かつ我々の意見を書くという、2つに分けるか、あるいは今のこの四角の中で最初の1、2行が、よりわかりやすくなるように書くか。おしまいのところ、確かに、このやり方だと理解しがたいですね。

【事務局】

そういうお話があると思い、パターンとしては5、6パターン考えております。

「平成23年6月現在」とか「内部評価」という注釈行の上に出したり、文章の中に入れてみたり、毎回同じ文章を書くのは読みづらいんじゃないかということも考えました。

その中で一番見やすかったものを先ほど説明しましたが、今おっしゃられているように内部評価の結果を文章の中に入れておきますので、一目でわかりづらいという欠点があります。

会長や部会長の方たちとのアイデアが良いか検討していただいてもよろしいかと思いたす
がいかがでしょうか。

【会長】

でも、どの辺に落ち着くのかというのが皆さん、不安なんじゃないかな。

今の文章のままで、目立つようにするということ。

【部会長】

「第二次実行計画の方向性（見込み）」という欄を作って、そこに内部評価の方向性、外部評価の方向性、外部評価の理由を記載するのは難しいでしょうか。

【事務局】

23年6月現在の内部評価ということをどこかにうたいませんと、初めて見た人が、これは行政側が一体いつの時点のどういう情報を提供して評価いただいているのか、わからないというのがございます。それをどうやって小さい欄に表現するかが、一番苦勞した点です。ですので、内部評価はこうでした、それに対する外部評価はこうです、と対比させるということもできると思いますが、それとあわせてここに書いてある内容は、どこかには記載させていただきたいと思いたす。

【委員】

出だしに全部同じ文言が書いてある。その文章が全部同じフォーマットで作られていることに工夫が欲しい。もうちょっと工夫をすると、ここは簡略化できると思いたす。

【部会長】

1つ2つ事務局が考えた他のフォーマットをご提示いただけませんか。

【会長】

とりあえず「拡大」なのか「手段改善」なのか、それが「適当である」のか「適当でない」のか、わかったほうがいいですね。それから文章を読んだほうが落ち着きます。

「第二次実行計画の方向性（見込み）」以外の欄のフォーマットに問題はないですか。

【委員】

ないです。

【会長】

そうするとやはりこの欄だけが問題ですね。ここは今回初めて作った欄だし。

【事務局】

各評価欄は第一次実行計画について、もう既に終わったことに対する評価。それに対して「第二次実行計画の方向性（見込み）」欄は見込みやそれに対する意見、変更があるというこ

とで、どうしても同じ時系列には並べられない。分ける必要があるだろうというところからスタートしています。

【委員】

少し気になるのが、ページのまたぎ方ですが、一つの事業への評価は出来るだけページをめくらずに読めるようにしてほしいですね。

【会長】

それはそうですね。事務局よろしいですか。では説明をお願いします。

【事務局】

では別のフォーマット案を3つご提示します。

1つ目は、タイトルが「第二次実行計画に反映させるための、平成23年6月現在の「見込み」に対する意見」です。事務局の一行目を別枠で目出しします。

2つ目は、タイトルが「第二次実行計画の方向性（見込み）に対する意見」これは事務局案と同じですね。ただ、下に補足として「平成23年6月現在」というのが入っている。代わりに意見欄の「平成23年6月現在の」という文言が削除されています。事務局案に一番近い形です。

3つ目は、タイトルが「第二次実行計画に反映させるための意見」です。1つ目と同じく最初の一行を目出しして、その中に「内部評価（平成23年6月現在）」と入れる案です。

いかがでしょうか。

【会長】

内部評価というのは平成23年6月現在の見込みであるというのを、どこかに1カ所、端のところに書いて、あとは「適当である」と書けばいいんじゃないでしょうか。この「平成23年6月現在」という文言がどこにもついて回るといのはどうかと思います。

ただ、多分事務局が心配されているのは、この該当する部分だけコピーして出回っちゃったときに、何か欲しいという意図があるんじゃないかと思うんですが。

【委員】

「第二次実行計画の方向性（見込み）」が「適当でない」という事業だけ、はっきりとその旨を明記するようにして、ほかのところは総括的に内部評価の方向性というのはいくつに示しているんだということを書いておけば、さしたる問題にはならないんじゃないかと思いました。

【会長】

「第二次実行計画の方向性（見込み）」の（見込み）を取っちゃって、「平成23年6月現在の内部評価に対する」という趣旨を入れるほうが正しいかもしれませんね。

【委員】

僕は案3に近いんですが、この欄は何を書いているかといったら、次の実行計画に反映させるための意見を書いているんですね。だから、第3案がいいのかなという気がしますが。

【委員】

私は第1案のほうが良いと思う。わかりやすいと思います。あんまり判断とか方向づけとか

書かれちゃうと、どういう意味か、普通の区民にはわからないと思うので。

【会長】

はい。じゃ、今の2つですね。

【事務局】

23年6月現在というのが事務局側で議論になりましたのは、23年6月現在って何のことか、区民の方は多分わからないだろう、そういうことがあったんですね。

23年6月の内部評価に対しての意見なんだということがわからないだろうということです。

【会長】

では、括弧が平成23年6月現在の内部評価と入れるほうが正確ですね。

まず四角の中をより簡単にするためには、タイトルに平成23年6月現在の内部評価と入れたほうがよろしいですね。

【委員】

はい。

【会長】

では、そうしましょう。四角のほうは上の「適当である」「適当でない」を1行、別枠を設けて、理由については、もう1つの段落のほうで書くということにしましょう。

それでいいですか。詳細は、事務局と調整します。

【事務局】

それでまた直して、部会長と会長にはもう一回見ていただきたいので、よろしく願いいたします。

【部会長】

そのときに「手段改善」とか「継続」というのはゴシックにさせていただいて、強調してわかるようにするとよろしいかなと思います。

【会長】

それもわかりますね。よろしいですか。

それでは、フォーマット全体についてなにかご意見ございますか。

いいですか。ありがとうございます。

2 外部評価結果の取りまとめ

【会長】

それでは次に外部評価結果の取りまとめについてです。報告書で外部評価全体を通した総括的な意見を、「今後に向けて」という形で書きます。ついては委員の皆さんと副会長、部会長のご意見をいただいた上で、課題あるいはこれからのことを書きたいと思います。

そこで各委員に、ぜひそこに書くべきだという内容をご披露いただきたいと思います。

まず副会長と部会長から部会の議論にあったご意見を出していただき、その後、委員皆さんのご意見を聞きたいと思います。

【部会長】

幾つかございます。

まず事業のネーミングについてですが、例えば「確かな学力」とは何ぞやとか、すごく議論を呼んでしまう事業があります。事業の内容を見てもよくわからなくて、第2部会始まったときからずっと議論になってきた。ヒアリングをしてもどうもぴんと来ないみたいなどころがある。例えば指標と照らし合わせるのなら「わかりやすい授業」とか、別に何かあるんじゃないかと部会で話し合いました。このような、事業名が事業目標を適切に表していないのではないかとこの事業が、幾つかありました。

次に、複数の目標が設定されている事業があります。複数の目標設定に対して事業目標水準が具体的に記載されています。例えば3つの目標水準が設定されている事業について、1つは目標が達成できていたが残りは達成していなかった場合、事業全体としての評価はどう考えるべきか、基準の持ち方が議論になりました。これは他の部会もそうじゃないかと思えます。

次に内部評価の表現についてです。この表現は去年もあった、確かその前から同じ表現が見られる、という内部評価が幾つかありました。区長の総合判断を反映して表現が随分変わった事業もあり、全体にはわかりやすく書かれている内部評価が増えた印象があるんですが、その一方で余り変わっていない、いつもと同じコピー&ペーストみたいな内部評価が見られたのが少し残念だったと思いました。外部評価から指摘して、区長の総合判断にも対応が出ているのに前と同じ内容というのはいかがなものかと思えます。

次に指標についてです。幾つかの事業ではすごく評価基準が難しいんです。例えば子どもの読書の読書活動の推進という事業がありますが、どういう指標を持てば、それが測れるのかは、その指標を検討するという段階から考えていかなければ、なかなか効果的な評価というのは難しい。こういう事業が幾つかありました。

次に所管課が主管している個別の評価委員会等で評価を行っている場合、外部評価委員会の評価を反映することが困難なケースも見受けられました。例えばその委員会で指標を決定している場合に、その委員会の考え方と外部評価委員会の指摘をどうするのかを今後整理する必要があります。

次に区政運営編についてです。第2部会は事業の外部化や指定管理者制度の導入の事業が中心でしたが、目標が「外部化します」「指定管理者を導入します」で終わっている。それが区政運営編だと言ってしまうとそうですが、その内容というんですか、指定管理者制度を導入後どういうふうに管理していくのか。もしくは、こういう視点で指定管理者を導入したい、単に効率化というだけじゃなくて指定管理者制度導入後、利用者である区民が使いやすくなっているというような内容を加味しての表現ができないんだろうかという意見が出ました。

さらに今年度は実績の無い事業がありました。例えば保育園と幼稚園の用務員の方を外部に委託する予定だったんですが、「定年退職者がいなかったので、今年はありません」で、終わっちゃっている。これは本当に評価しにくかったです。

第2部会の方たち、何かほかにございましたら、ご指摘いただければと思います。

【委員】

先ほどありました「確かな学力の育成」ですが、区民の視点から見ると、素点とか偏差値というものを計数化したもの、何を基準にして確かに学力がついたと見るだろうということを、去年ヒアリングも実施して相当時間をかけて話したんですが、それがついぞ見えなかった。

それも含めて、第2部会ではかなり時間をかけてこの点を協議したということも補足させていただきます。

【部会長】

他は、第2部会の方ございませんか。

【委員】

時間的な問題もあるんですが、もうちょっと現場を見て判断しないといけないのかなと思います。いろんな勉強して理解はしたつもりですが、やっぱり現場に行って、見て意見を聞かないとわからないことや、判断できないというようなのがあると思う。

【部会長】

それからヒアリングの時ですが、複数の課が関わっている事業について、これはどうなんですかとお聞きしたら、これは私たちの担当ではありません、事業では入っていますが、実際の担当は何々課ですと返答をされることがあった。事業全体の所管課ならば、実際にやっているのは何々課でも、もっと連携をとっていただきたいと感じました。その辺の整合性をとった形でやっていただきたい。

複数の課で跨って事業をするなということではなく、跨っていていいから、それぞれの課がお互いに連携を取っていくと、この内部評価が生きてくるんじゃないかと思うんです。

【会長】

ありがとうございます。

第3部会はいかがでしょう。

【部会長】

第2部会で述べられたことと一部重なりますが、幾つかございます。

まず、これまで「適当でない」という評価を下している事業に対し、今年「適当である」に変わったケースがあります。昨年こう言っておきながら、今年変わったことの原因をきちんと説明しなきゃいけない、という話がありました。一方で今までの判断が間違っていると思えば、正すにおっくうがることはかえってよくない。

今までこういう判断をしてきたけれど今年は違う判断した。しかし客観的事態は何も変わっていないというのが、果たしてよしとされるのか。実際には、部会の委員構成が変わると判断が微妙に変わることは当然あり得ます。そういうことが、内部評価に対する外部評価という制度を導入している新宿区役所及び新宿区民にとっていいことなのかどうか。このことは課題として今後考えていかないといけないと思いました。

それから、評価の中心的、根幹的なことかもしれませんが、評価の手順・方法として内部評価を区民目線で評価することになっているんですが、これは必ずしも一義的ではない。内部評

価を外部評価するというと簡単なように見えるんですが、区民である以上、自分の生活や活動の経験から内部評価に書いてある以上のことも当然知っている。そこからこの評価は違うんじゃないのということになる。それは必ずしも内部評価書についての一般人的理解を基に評価することにならない。加えてさっきご意見ありましたように、現地視察がやっぱり重要だと思う。それによって非常に自信を持って評価できる。内部評価書だけでなく、現場の雰囲気、そこで聞いた話とかを根拠に評価することができるわけですが、これも内部評価を区民目線で評価するという原則からは外れてしまう。結局、内部評価の内容だけでなく、いろんな情報に基づいて外部評価しているのが現実で、この問題をどう考えるのかという課題があると思う。

外部評価をどうやって適正にやるのかという問いとほとんどイコールなので、永遠の課題ですけれども、今後とも悩みながら、そういうことを考えなきゃダメだということです。

それから、第2部会でもありましたが、アウトカム指標をどう工夫するか。これは担当課も工夫していただかなければいけないし、我々もアウトカム指標を出してほしいというだけじゃなく、どういうアウトカム指標が考えられるのかを、一緒に考えることも必要ではないかと思う。これまで4年間第3部会に参加いただいた委員には、そういうふうに考えていただいたように思っています。これは非常に難しい課題です。アウトカム指標で、かつ感覚的じゃなく客観的、できれば数値的なもので、どのくらい達成されたかを測る指標の設定という大きな課題ですが、担当課も工夫してほしいし、我々も知恵を出していかなければいけない、そう思いました。

それから、枝事業の問題です。やや性格の違う複数の枝事業から構成される事業があって、枝事業ごとの進捗状況がかなり違うから一括の評価が出来ないといわれた。これは事業の編成の仕方を変えたほうがいいのかも说不定。また、枝事業ごとに性質が違って、かつ内部評価でも、こっちは丸で、こっちは今一つとか、そういう場合には別々に評価するとか評価の仕方考えないと、外部評価書ができたときも、読んだ人も何かわからないということになりはしないかなと思う。

大体、そんなところですね。少し繰り返しになりますが現地視察は非常に重要で、大事な評価の手法だと思っています。

第3部会の方から補足がありましたら、ぜひどうぞ。

【委員】

92「行政評価制度の確立」については委員全員から意見を出してもらってもいいんじゃないでしょうか。現在の表現で意のあるところは読み取っていただけるか、全員の合意をとっておいたほうがいいと思います。

【副会長】

特に「第二次実行計画の方向性（見込み）」への意見ですね。「評価制度は定着したが評価の文化が定着したとは言えない。」事務局が内部評価及び外部評価の調整役をしているわけですが、まだ各事業課に外部評価委員会の意図が十分伝わらない、あるいは行政管理課の意見が伝わらない、そういうものが見えたので、もっと行政管理課の意見もいただいて、区全体が外

部評価に心から協力するというようにせねばならないんじゃないか、そういう意味で行政管理課へのエール、そういったものを込めてこのようにしております。

どうでしょうか。第2部会でもありましたが、同じことを繰り返している、そういうのを見ると、評価の文化が十分定着したとは言えないと思うのですが。

評価制度は定着したが評価の文化が定着していないというのは、評価はしているけど、その評価した内容で次のステップに活かされていないという意味もあるかと思います。

【部会長】

すごく変えよう、変わったほうがいいと考えて外部評価を活用して動いてくださっている部署もあれば、「わかりました、おっしゃることは、もうわかっています」、「言いたいことはわかっても、できないんです」というのが見えてしまっているようなところもある。「一緒に考えよう」と思っているんですが、ある種ガードが堅いと思うところが幾つかあった。

全庁的に評価をしなきゃいけないということは、この4年間でかなり意識化されたと思うんですが、それを活用して自分たちの仕事をよりよく、区民にとってよりよいものにしていこう、自分たちの仕事をアピールしよう、というところまではまだ行っていないのかな、というのが私の個人的な見解です。そういう意味で、第3部会の評価はそうだなと思いました。

【委員】

ユニバーサルデザインなんかもそうです。今だに、内部評価が縦割りの評価なんですよ。細かいことではとつてもとつても変わっているんだけど、全体的なユニバーサルデザインとか、こういう活性化とかという面の評価については、「課は課です」、幾ら「縦割りじゃなくてグローバルにやってください」と言っても「それはできませんよ」と、こうシャットアウトされているとしか思えない返答がいつも出てきて、「そういうものではないですよ」というだけで終わってしまっている。だから評価を活かすつもりが無いのかなという部分が、あると思っています。

【委員】

「評価の文化」という表現ですが、これを何か変えられないのかなと感じます。もう少しだいて、例えば評価の手段を、尺度、視点、項目ぐらいに分けて、それらについて改善の余地があるとかがいいんじゃないでしょうか。「評価の文化」というのは非常に幅広くて掴めないんじゃないかと思うのですが。

【副会長】

評価の文化というのは、我々がこれまで冊子の表題に使ってきた言葉ですね。それを頭に置いているので、ある程度の共通理解が、その理解があることを見込んで使っています。

【会長】

日常的な作業の中に評価というのが入っていないという印象がある。日常的な中で評価があって初めて次のステップがある、そういうことを望んでいて、期待してこういう言葉を入れたと思うので、僕はこういう言葉は新宿区外部評価委員会の一つのキーワードになるんじゃないかと思っています。ただ、ここはもうちょっと親切に書けというのものもあるかもしれませんね。

一方で我々が書いているわけだから、これでもいいのかという気もしますけど。

ではこの話は一応この辺で、ありがとうございます。

第2部会、第3部会についてご意見があればまた後で伺うとして、続いて第1部会です。

全体についてはほとんど他の部会が言われたので、第1部会の特徴に絞って申し上げます。

まず、先ほどもありましたが、事業が縦割りで評価も縦割りだから、もうちょっとまとめた事業の進め方、評価の仕方があっていいのではないかなということは、都市整備の領域ではかなりありました。

今回、第1部会が強く指摘したのは、道路上で路上駐輪を整理したり、たばこのポイ捨てのことを注意したり、ゴミの清掃をやったり、路上で色々な事業をやっています。シルバーセンターなどに委託しているんですが、それが全部違う課が所管し、委託される側もその単独のことしかしていない。もう少し乗り入れながらやったほうが、最終的にはコストパフォーマンスがいいのではないかと部会で議論しました。質問もヒアリングもしたんですが、全くノーでした。一部、コストがかかりすぎるので検討はしますという言葉はありましたが、3つ一緒にやろうという意図は全く見られなかった。

同じ道路上の話であるにもかかわらず、まとめて考えてみようということが全く見られないことは、都市整備領域の縦割りを如実にあらわしていると思った。先ほどのユニバーサルデザインという発想だとか景観とか、都市整備、都市空間の領域には総合的なものが求められているのに、事業は完全に個別になって、個別にコストパフォーマンスを考える、ということ、今までも感じてはいたんですが、今回特に感じました。

もう一つ、これも都市計画の特徴ですが、相手方がある、区役所だけでやれることが少ない事業についてです。特に歌舞伎町のまちづくりは、ここ数年ずっとヒアリングをしてきました。区役所が支援しなくてもいいとは全く思いませんが、相手のある事業について、どこまで力を入れてどこで抜くのか、そのさじ加減は大変難しいんですが、それを理由に「向こうがこうだからやりませんでした」とか「こうだったから、当初予定したようにはできませんでした」では、こっちもそれ以上なにも言えない。相手がいることに伴う評価の難しさを今回とても感じました。関係事業者との調整というのか、そういうことの難しさを感じた次第です。

あと第二次実行計画に向けて一番強く書かなければいけないのは、今回の大震災を踏まえて、より一層防災対策への総合的な取り組み、単にお金を増やせというだけじゃなく、待ったなしの状況であると感じました。

他の第1部会の委員の方はいかがでしょうか。

【委員】

補足になりますが、同じ業務についてもシルバー人材センターに割り振っているだけではないようです。その辺も含めて上手に割り振りして、考えてもらえれば解決できるんじゃないかなというような気がしました。

もう一つ、防災についてですが、トイレとか道路とか色々な事業を行っている分野については、もうちょっとまとめて予算づけしてから、優先順位を決めて、本当に必要なところに優先

的に割り振るようなことはできないのかなという気がしました。

【委員】

今のご意見と似たようなことですが、防災という点から、道路・公園の防災性の向上とか無電柱化整備とか、細街路の整備とか、こういう事業は防災視点から、まとめて考えたほうがいいんじゃないかと思うんです。一つ一つが縦割りになって事業が続いているので。

非常時の対策と別に、日常的に災害に備えなければいけないことというのがあるわけですが、余りにも遅いんです。それでは間に合わないんじゃないかと思いました。

他の事業も防災という点から見てみるとどれも甘いんです。ゴミの問題にしても何にしても甘くて、住宅の問題にしても甘いと感じました。

【委員】

先ほども議論になりましたけど、評価文化の定着ということです。これについては、道半ばであるというような状況だと思います。それで、今後に向けての対応の仕方ですけれども、これまでのような我々と区とのやりとりだけでは限界があると感じる。部署によって非常に温度差があると思う。我々の指摘を真摯に受けとめて、次の機会にはしっかりした回答を出してくれるような部署があるかと思うと、逆に前回と同じような対応にとどまるような部署もある。

そういうところは行政管理課が、まとめ役、仕切り役として内部の仕切りをこうしっかりやっていたらいいのではないかと、我々としても、評価がはかどっていくのではないのかなと思いますので、行政管理課の今後のご尽力に期待を申し上げたいと思います。

それから、やはり受ける部署でもスピード感をもって対応するようにしていただきたいと思っています。行政評価の目的として、透明性を図るとか、その区民への説明責任を果たすということがありますので、1年たっても2年たっても同じようなことだと、全然その説明責任を果たしていないということになる。そういうことで、我々の指摘については真摯に受けとめて、スピード感をもって対応していただきたい。これをお願いしたいと思います。

【委員】

皆さん、一通りおっしゃっていただいたんで、もう言い尽くされていると思うんですけども、私を感じたことを2点申し上げておきたいんですね。

1点目は組織のレベルの話です。我々が相手をしている課というのは、いわば実行部隊です。実行責任を持って実行する部隊。その部隊の内部評価に対して、我々が意見をいったときに、彼らは法令であり条例を根拠に行政しているわけですから、極端なこと言えばやめたくたって法律がある以上やめられませんという姿勢がある。そういうものを肌で感じるケースがあります。そういうところは、やっていて限界を感じる部分があります。実際の法律に基づいて、あるいは会社の命令で実行部隊に「おまえのところ、おかしいな」という話じゃなくて、それを命じている部分、部長以上の行政の実行責任を持っている部分が、これに対してどれだけ真剣に受けとめるかということが、これから求められていくんじゃないかと本当に感じる。

2点目は先ほどもあった事業名についてです。例えば地域防災拠点と避難設備の充実という、「おお、すごいことやっているな」という名前の事業があります。で中身は何をやっているか

という、小滝橋の地域防災拠点の施設の設計をするということと、上落合の空き地に防災拠点をつくるという事業です。このネーミングからすると、当然、新宿区の総合的な計画として受けとめますから、全体の計画は何ですかと当然聞きます。そうすると、いや、実はこの事業は上落合にそういう拠点をつくることと、小滝橋にそれを整備することですと返ってくる。それだったら、そういうネーミングにしたらどうですか。全体的なネーミングにするから、それなら、他の部分はどうなんですか、事業全体計画はどうなんですかという話になってしまう。そういう趣旨のものは、他にも第1部会の中にいくつもあって、それならば全体の計画を示して欲しいというようなことがあった。事業名は、その事業の内容がわかるようなネーミングが望ましいんじゃないかなと感じますね。

【会長】

ありがとうございました。

今、いろいろご意見を聞いていて、これは評価書の巻末に「今後のこと」として書く分量を越えていると思います。今後に向けては今後に向けてとして、もちろん書きますが、今のことを全部入れたら、今後に向けてというタイトルもふさわしくない。4年間みんなやってきた行政評価への課題としてきちんと整理して書かないといけないんじゃないかと思います。

では全体に何かご意見のある方いらっしゃいますでしょうか。

【委員】

足かけ4年間、外部評価が区長に答申してきましたが、やってきて何だか無力感がある。例えば道路・公園の防災性の向上とか帰宅困難者にとっての公園トイレ整備について、行政側としては新宿ルールというのがあって、防災活動として帰宅困難者は事業の対象としていないという前提がある。そこに入れるべきじゃないかと意見を出すと、そこへ入れちゃうと、100人、200人のために膨大な予算をかけなくちゃならないということになってしまう。

そうすると、我々は予算についてまで言わなくちゃならないことになる。今の内部評価のあり方は、予算に対してこれだけの執行をしましたよという評価、執行状況の評価をしている。もらった予算をこういうふうに使ったんですよという評価でしかないのに、外部評価はそこから先の外の枠まで行っちゃうとずれが出てきてしまう。

【委員】

行政管理課としては外部評価を本当に気にするんだったら、1年目の外部評価の意見を取り入れて2年目にはこういうふうになりましたと、太文字か何かでやって、最後のページにどこの部がこれだけやりましたと示してほしい。そうすれば、他部課の状況を見て、こんなふうによそはやっているんだと見ることもできる。実際に生かされているんだとわかる、そういうことが必要です。

【事務局】

そのことについては、なくはないという表現になってしまいます。内部評価と外部評価の結果を踏まえて、区の取り組みについてというのを出しています。この中に行政評価を反映した事業及び反映内容という形で記載をしています。ただ、これを読んで中身がわかるかどうかと

いう問題があります。

【委員】

計画を立てるときとか内部評価の項目に、「何年度の外部評価でご意見をいただいて、こう変更しましたとか、こう拡大しましたとか記載があるといい。又はその意見を受けて今こんな手続を踏んでいる段階であるという記載。そうすれば余り行政評価に積極的でない部署も「ああ、そうなのか。外部評価の意見も聞いておかないとまずいな」となる。

外部評価の指摘を踏まえ、こういうふうに変えましたとか、どこかで対比するものがあると、評価する方もやる気が出てくるし、評価される側も「こういう意見もあるんだから、区民目線の意見も、やっぱり取り入れていないとしようがないな」という一種の競争意識もでてくる。そうすれば外部評価にも価値が出てくる。反映された部分がもう少し明確に、誰が見てもどこかでわかるもの、そんなものないのかなと思う。

【委員】

返ってくるものが欲しい。それはそうですね。確かな学力などは特にそんな印象があります。

それに関連してですが、第3部会の評価、町会・自治会及び地区協議会の活動支援の「第二次実行計画の方向性（見込み）」への意見として、「地区協議会の位置づけが明確でない」という評価をしております。私が期待するのは、町会・自治会という一つ組織と、地区協議会、地域センターの管理運営委員会、それと青少年育成委員会、この4つが、同じ地域で同じような活動をしている。地域協議会の位置づけの明確さというのを、もう少し強調して役割をはっきりして書けないかなと思っている。

自分の住んでいる地区では、この4つの組織は同じような人たちが同じような活動をしているんじゃないかと思っている。第3部会でそういう意見は出なかったんですか。

【委員】

地区協議会は、主に町会・自治会に属していない人がメンバーとして構成されるから、ある程度は目的に合っているんだろう。合っているんだけど、その人たちに力があるかという点、まだ実績のない人が意見だけ言っても、行動してきた実績のある他の3団体に負けちゃう。そここのところは難しい。いい意見を言っている。だけど地区協議会が会議だけやっても、行動して実績を積んできたのは育成会であり町会です。地域センターも実際に活動している。この違いが何とかならないかなと思う。別立てにしないとだめじゃないかと思って地区協議会に絞って意見を出しました。

【委員】

なるほど。ありがとうございます。

【委員】

先ほど防災拠点の整備について、名前の割に事業が小さいというご意見がありましたが、下落合にいわゆる防災拠点があつて、市谷に防災センターがある。新宿区の両サイドに防災拠点があるということを考えれば、その名前も納得できるんじゃないかと思う。

それから市谷の防災センターは、職員の防災宿舎はないんですが、落合は宿泊施設をつくら

うとしている。それから高田馬場とそれから柏木、いわゆる北新宿四丁目には東京都の防災宿舎がある。そういう面では、それなりに行政は考えてやっていることは事実です。

【会長】

それでは、先ほど申し上げたように、4年たった大きな節目ですので、「今後に向けて」は例年より膨らませて書きたいと思います。第二次実行計画に向けて、4年間の活動の成果もきつとある。うまく展開した事例もきつとあると思いますので、いい事例も出しつつうまく計画文化、評価の文化が回っているというのもピックアップしながら、課題は課題としてきちんとまとめたいと思います。各部会長と事務局にもお手伝いいただきながら、外部評価の4年間の成果及び、まだ残された課題というようなものは、明確に書いた上で、「今後に向けて」を膨らませるといことで少しご了解をいただきたいと思います。

【部会長】

実は他にヒアリングに関する問題点が1点あります。行政組織に異動があるのはしようがないと思うんですが、ヒアリングをすると異動したばかりで答えられないという方が結構いた。

責任というのもございますからどうしても課長級の方がいらっしゃるんですが、今後、ヒアリングをする時、課長の他にも出てきてくださいと言ってほしい。もちろん課長も部長も出てきていいんですが、わかっている人が即答えてくださるような体制というのは、役所のヒエラルキーからいくと難しいんでしょうか。

【会長】

それこそ評価の文化の問題です。少なくとも第1部会では答えてくれた記憶しかない。課長だけじゃなく、もう1人来てくれたりとかしている。それはこの場をどのくらい重視しているかということだから、結局、評価の文化がどのくらい定着しているかということだと思います。

【事務局】

そうですね。課長級がわからない場合もありますので、係長級が補佐として一緒にきているというのが通常のパターンだとは思いますが。ケースによって、課長お一人が来られていて、答えに窮してしまったみたいなことがあったかと思いますが、係長級の職員も一緒に出席してもらうことに全く問題はありませんか事務局からはお話をしています。

【部会長】

一概には言えませんが、課長でなくてもいいからわかる人が来て答えてくださいというものがあった。ぜひ、今後はわかる人と一緒に課長も来るようにご指示をいただければうれしいなと思いました。

【会長】

ありがとうございます。では最後に、「評価の文化」という言葉ですが、今回の4年の一つの締めですので、同じタイトルをつけて報告書としたいと思うんですけれども、これもよろしいでしょうか。

ありがとうございます。では本日は以上になります。

<閉会>